

# LTOテープとクラウドを活用した最適な デジタルデータ保存管理



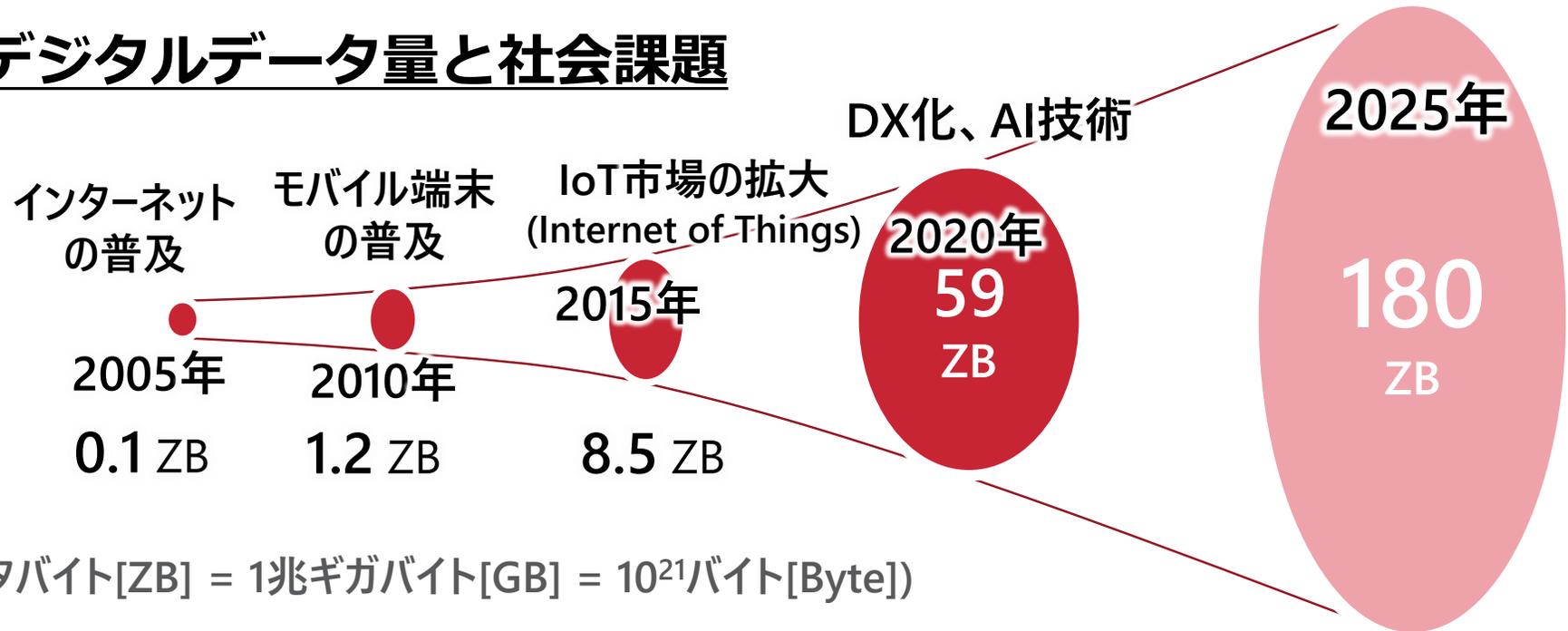
2023年6月

株式会社ユニテックス

# 市場環境と顧客ニーズ

## 増大するデジタルデータ量と社会課題

世界のデジタルデータ量推移と今後の見込み



(1ゼタバイト[ZB] = 1兆ギガバイト[GB] =  $10^{21}$ バイト[Byte])

社会課題

- ・ DX化, AI/IoT等の普及で2015年から2025年の間でデータ量は20倍に増大し、各企業・官公庁はデータ保存システム拡大の課題に直面
- ・ 大容量化で24時間365日フル稼働のディスクシステム/クラウドのCO<sub>2</sub>排出量が増幅し深刻化、カーボンニュートラルの動きと逆行
- ・ データ量増加とともに増えるサイバー攻撃・ランサムウェアの被害

顧客ニーズ

増大するデータを簡便に、低コストで、省エネで、安全に長期保存したい

# LTO-9テープについて



## LTO [Linear Tape-Open]: 国際標準の磁気テープメディア

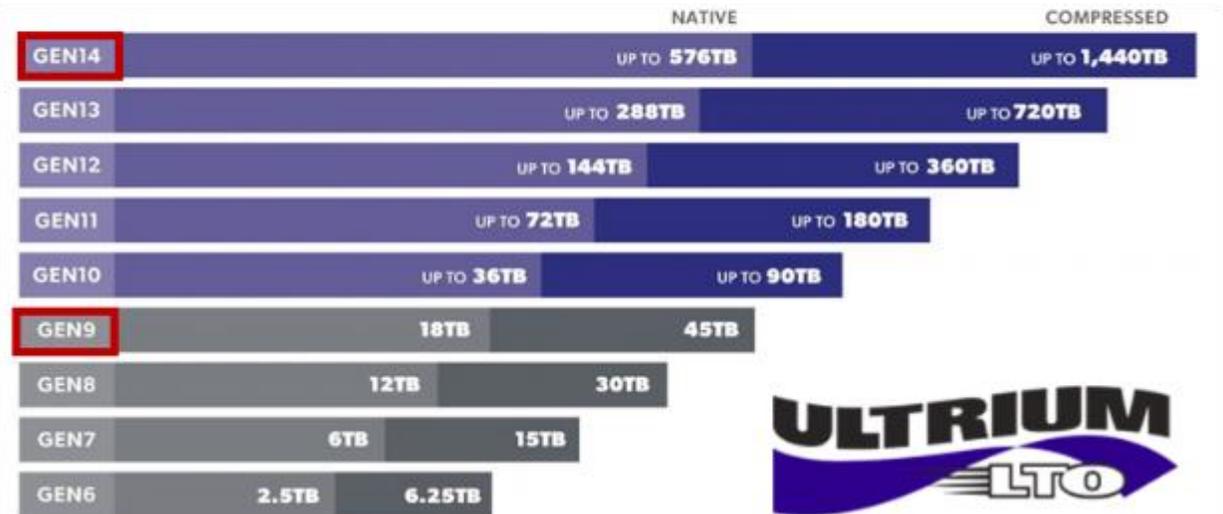


名刺2枚分サイズの1巻に**最大45TB**の大容量データ保存

## 万能な最新データ保存メディア

	LTO	HDD	Cloud
容量	◎ (45TB)	△	◎
コスト	◎	△	○
耐久性	◎ (30年)	△	○
セキュリティ	◎ (オフライン)	△	△
環境負荷	◎	×	×
転送速度	◎	○	ネットワーク速度次第

### 最新世代LTO-9、世代14までのロードマップ



# USB接続LTO-9装置について



## 自社開発 世界唯一のUSB接続LTO-9装置



USB3.0 ポート  
プラグ & プレイ

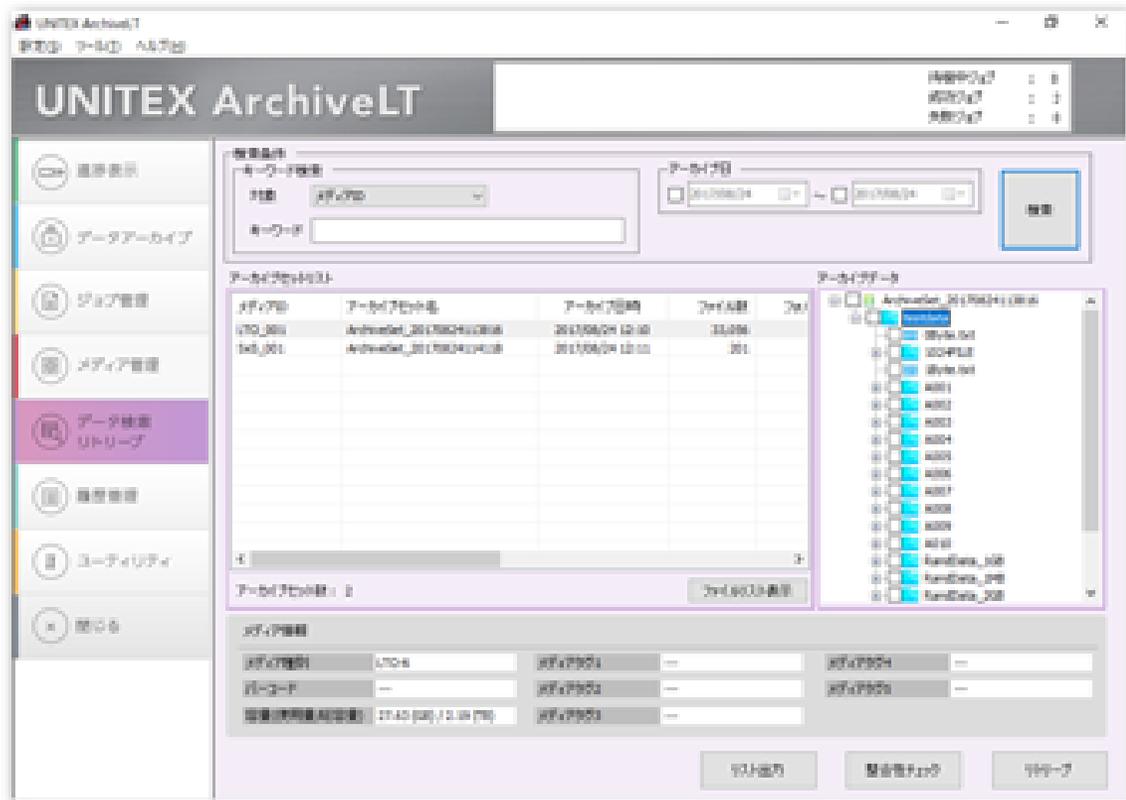
ノートPCをはじめとするUSB機器の**USBポートに接続するだけで**、IT知識の無い方でも、簡単にスモールスタートで45TBの大容量データをLTOに保存できる

**300MB/sの高速データ転送スピード**でストレスフリーな大容量データアーカイブ

# UNITEXアーカイブソフトウェアについて



## 自社開発アーカイブソフトUNITEX Archive LT による飛躍的な効率性・安全性向上



- ◆独自のデータベースによる**オフライン管理**
- ◆**最大4カ所**への同時アーカイブ
- ◆独自のアルゴリズムによる**高速アーカイブ**
- ◆15種類の**メタデータ付与**で簡便な管理・検索
- ◆アーカイブデータの**リトリブ**(取り出し)
- ◆データ**整合性チェック**(改竄防止)
- ◆**暗号化**によるセキュアなデータ管理
- ◆設定した**スケジュール**での**自動アーカイブ**
- ◆**フォルダ監視**による自動アーカイブ
- ◆**コマンド・API**によるアプリケーション連携
- ◆**メディアスキャン**による他メディア取込み

# UNITEXアーカイブソフトウェアについて

## 【クラウド連携機能】

### クラウドとLTOに保存しているデータを一括管理

- ・ ユーザーPC上のデータ及び既存メディアを、LTOテープおよびクラウドへアーカイブ可能
- ・ アーカイブデータは、アーカイブシステム上からメタデータ等を使って検索が可能
- ・ 検索したデータは、LTO及びクラウドからリトリーブが可能
- ・ 例えば、利用頻度の高いアーカイブ直後はクラウドにてデータを公開し、公開期間満了後、LTOへ自動移行し、クラウド領域を圧縮することが可能

LTOとクラウド  
同時アーカイブ可能



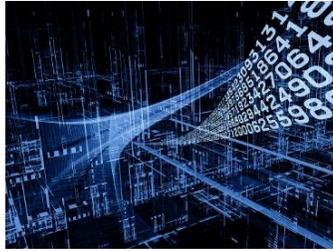
期間や利用頻度にあわせて自動移行



# 今後、必要とされる 増大する大容量デジタルデータ の効率的な保存管理方法

データの区分

クラウドに保存し、頻繁に  
データを出し入れ



- ・アクセス速い
- ・データ共有が簡単
- ・設備投資が不要

ホットデータ  
利用頻度高い  
10%-20%

USB LTO-9データ保存システム  
でLTOテープに長期保存



- ・スモールスタート
- ・誰でも簡単に保存管理
- ・棚管理でデータは無限大に保存可能
- ・CO<sub>2</sub>排出量大幅削減
- ・サイバー攻撃回避

コールドデータ  
利用頻度非常に低い  
80%-90%

普段利用しないが将来の  
利活用の為に保存しておく  
必要のある大容量データ

# 活用事例：AI自動選手認識アーカイブシステム



USB LTO-9データ保存システムとクラウドをデータ保存管理のコアとして、前工程・後工程となるデータ自動振り分け・検索等の機能をAI技術活用して拡充展開

## 2022年にFC町田ゼルビアに導入したAI自動選手認識アーカイブシステム

今後、他業界へ応用展開をはかる

